

カリキュラム・ポリシー

幼児教育学科は、「教育目的」を達成するために、以下のようにカリキュラムを組み立てている。

1. 教育課程編成の基本方針

本学幼児教育学科の教育目標を踏まえ、保育・教育の専門職業人として必要な基本的態度・習慣、人間性を身に付け、保育・教育の専門職として必要とされる専門知識、判断力、保育技術を修得できるように教育課程の枠組みを「総合科目」と「専門科目」とで構成している。卒業要件 69 単位に対する教養教育にあたる「総合科目」においては9単位以上の履修とし、「専門科目」においては 60 単位以上としている。

教育課程の編成については、それぞれの授業科目が有機的かつ体系的に学習できるように編成している。また、音楽、図画工作、保育心理などの分野でより深く学ぶために、各自が選択履修することが可能になっている。さらに、ピアノの個別指導を充実していることも特徴となっている。

2. 科目群の構成

(1)総合科目

総合科目は、地域社会に貢献できる保育・教育の専門職としての土台となる幅広い教養を身につけ、人権を尊重する倫理観および主体的な学びの態度を涵養し、コミュニケーションスキルを習得するための科目群から構成される。

①人間と現代の理解

人間を客観的に理解し多面的に捉えるための幅広い教養を身につけ、理論的根拠と結びつけながら専門科目を学習するための基礎力を醸成する。また、保育・教育を学ぶ者として、子どもにとっての自然体験活動の意義を体験的に理解する科目も配置されている。

②生涯学習力

社会的な問題に主体的に取り組む態度を涵養し、学ぶ主体である「私」をつくり続けることができる生涯学習力を涵養することを目的とし、「生涯学習力を高めるための科目」を配置する。また、それらにキャリアガイダンスを取り入れると共に、「週フォリオ(自己の記録)」の取り組みを促し、ADによるキャリア支援を学習、生活等と関連づけて総合的に進める。

③コミュニケーション

人間社会で一人の職業人として、さらに人に対応する保育・教育の専門職として基本となるコミュニケーション力の育成を意図する。さらに国際化社会に対応し、人の反応を的確に捉え、意図的に情報を活用できるコミュニケーション力を育成することを目的とし、「コミュニケーション力、日本語・英語の表現力、ITを活用した情報リテラシーを高めるための科目」を配置する。

(2)専門科目

専門科目は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」、「保育実習」、「教育実習」、「総合演習」、で構成される。さらに、学生が特定の領域の学びを深めることができるよう、これらの専門科目を領域ごとに縦断的に提示する、以下の履修モデルを設定している。

①幼児教育履修モデルは、子どもが安定し、充実した生活を営むために、しっかりした保育計画をたてる保育者を育成できるよう、これに必要な総合的な力を身につける。「幼児教育演習」などの科目が配置されている。

②造形表現履修モデルは、子どもの感性や表現する力や想像性などを一体的にはぐくむ造形表現についての学びを深める。そして、子どもが造形表現活動において、主体的に生きる喜びを感じることができる環境づくりや支援ができる力を養う。「図画工作Ⅰ」「図画工作Ⅱ」「保育内容(表現Ⅱ)」「造形表現演習」等の科目が配置されている。

- ③音楽表現履修モデルは、子どもが音楽表現に喜びを感じ、感性を育めるよう、主にピアノの表現力を強化する。「音楽表現演習」などの科目が配置されている。
- ④保育心理履修モデルは、保育を心理学的な観点から理解する力を養う。「保育心理演習」等の科目が配置されている。
- ⑤身体表現履修モデルは、子どもにとっての身体表現の意味を理解し、また、子どもが豊かな表現ができるよう保育者としての表現のセンスを養う。「身体表現演習」などの科目が配置されている。
- なお、「保育実習」、「教育実習」については、保育所や幼稚園、福祉施設において、具体的な実践や観察を通して保育士や幼稚園教諭として必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。また、実習の準備や実習体験の学びを定着させるため、実習の事前、事後指導を行う科目が設置されている。